

リレーエッセイ

センター21に期待すること

のししみんかつどうしえん

ふじみ野市市民活動支援センター 吉沢 悦子

わたしは中高一貫のミッションスクールで孤児院や病院、教護の訪問などを経験してきました。

大学を卒業して中学校の教員となり、「感受性の豊かな子ども頃に、道徳の本からではなく、身近にいろいろな方々と普通に接する体験をさせたい」と思っていました。福祉委員会を立ち上げると多くの子どもたちが積極的に参加し、全校生徒で福祉体験学習に取り組み、市内の福祉活動団体から力強いエネルギーをもらいました。

今、沖繩で活動している伊藤準さんに講演をしていただいたのが「センター21」との出会いです。勝手に動く手足を車イスに結わえ付け、帽子の先に付けた棒でワープロを叩き、強烈な人生を綴ったお便りを読ませてもらい、体育館で全校生徒に「施設から出て、地域で暮らしたい夢が実現した」と必死に話してくれた姿は忘れられませぬ。

青空自由市でたくさんの方が福岡中央公園に集まりバザー

を楽しむ、くまのベーカーズのパンの製造販売などいきいきと活動する皆さんを応援してきました。ドキュメンタリー映画で障がいのある方を視聴したり、東日本大震災の避難者交流会「おあがんなんしよ」で衣類の提供をしてくれたこと、とんぼの会合唱団の歌声に被災の辛さを忘れられたと喜んでもらったこともありました。

市民活動支援センターで毎年行なう「市民活動交流会」には、センター21の皆さんが参加してくれて地域参加を考えて来ました。昨年度は「職業体験 ふれジョブをふじみ野市でやりたい！」を提案しました。是非、センター21と地域が協力して作り上げたいと思っています。

「ふれジョブとは？」 平成15年に岡山県倉敷市で始まった市民活動です。特別な支援を必要とする子どもたちが地域のサポーターと一緒に、地域の企業やお店で週1回、1時間の仕事を半年間続けます。子どもたちを中心に、保護者、学校、地域住民、企業・お店が出会い、地域に温かい人のつながりが再生します。